

令和7年度 大林学区地域運営委員会 事業報告書

1 令和7年度の目標に対する事業実施の成果

・地域住民はもとより、可部地区の団体、近隣企業との更なる連携の輪が広がった。開催する事で、保存・継続する事ができた
・子育て世代の参加者が増えることにより、地域に興味や愛着を持つ若い世代が増え、将来発展への更なる期待が持てた

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	大林夏祭りの夕べ(中世ロマン熊谷踊り)	(6)事業中(1)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(11) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年6月1日 ~ 令和7年8月12日	
(2) 実施場所	大林小学校グラウンド	
(3) 参加者数	2,500人	
(4) 主催団体	団体名 大林地区文化事業実行委員会	
4 取組内容	「熊谷踊り」は、熊谷氏ゆかりの大林地区に西暦1500年中期を起源とし、約430年余にわたり踊り継がれてきた地域固有の伝統行事である。踊り継ぐ後継者がおらず約90年前に完全に廃れてしまった。平成25年に「熊谷踊り」を復活させ「大林盆踊りの夕べ」を開催し保存を図っている。 さらに、毎年熊谷踊りを充実させながら盆踊りで披露し、これを市民に広く周知すると共に、毎年開催する事で、保存・継続する事を目的にし、LMOとして3年目の取組となる。引き続き踊り子、運営関係者に旅費を支給する事で、さらに継続しようとする意識が高まっていくと感じた。今年度は、高所作業を伴う電気配線関連のコネクター化を図り、安全な行事の運営に取り組んだ。	
5 目的・効果		
(1) 目的	昨年は装備・備品関連の更改を実施したので、今期は櫓への高所作業を伴う電気配線をコネクター化し、安全に準備が出来る環境を整備することにより、特殊な準備の簡素化を図り、世代を超えてより多くの住民が参加しやすい地域行事とする。 準備・練習段階から、更なる小学生の参加勧奨、若者を取り込んだ練習体制を確立させ、地域の伝統文化の継承を図る。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	昨年同様6月から準備・練習を開始し、PTA関連の父母、小中学生の参加を募り練習を開始する事で、地域での連帯意識の醸成や地域活動の担い手の確保が図ることができた。 設営準備段階の危険作業を回避する事で、だれもが準備に携わることができるようになり、楽しく盛り上がる環境となり、地域内での世代を超えた交流が促進された。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	木と食の里祭り(継続案件)	(6)事業中(2)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年11月22日	
(2) 実施場所	トーホー株式会社広島工場	
(3) 参加者数	3, 500 人	
(4) 主催団体	団体名 大林学区地域運営委員会(関連団体:大林間伐材再生委員会)	
4 取組内容	古来より、里の暮らしは里の恵みの上にあった。近年、高齢化・過疎化により里山の荒廃が進み、現在は豊かな森林資源を活かす機会を失っている。度重なる土砂災害は人を里山から遠ざけていく。 これはこれからの時代を生きる子供たちにとっても、残念なことである。間伐材をキーワードに、改めて里の恵みをたくさんの方と共有・体感し、その魅力を守り続ける施策の一環とした。また、トーホー(株)主催のオープンファクトリーと同時開催する事で、より多くの来訪者に大林ブランドを紹介できる機会をつくった。	
5 目的・効果	(1) 目的 ・間伐材を活用する体験を通じて、里山保全が温暖化防止と防災に繋がることを伝える。 ・こどもたちに、里山を守る技を伝え、里山を想うところをつむぐ。 ・市民や企業の枠を越えて多様な世代が集まり、人と人、人と里、人と山の関りをつむぐ。 ・里を守る=地域に暮らし続けられる環境づくりを行う。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。） 地域住民はもとより、可部地区の団体、近隣企業との更なる連携の輪が広がった。 子育て世代の参加者が増えることにより、地域に興味や愛着を持つ若い世代が増え、将来発展への更なる期待が持てた。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	大林の森林資源を活かした里山整備	(6)事業中(3)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(7) 地域の生活環境の整備又は美化に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年2月28日	
(2) 実施場所	大林中ノ谷山の神周辺	
(3) 参加者数	30人	
(4) 主催団体	団体名 大林学区地域運営委員会(関連団体:大林愛林会)	
4 取組内容	里山再生に向けた取り組みの一環として、昨年度大林愛林会の松くい虫荒廃地15aを整備し、広葉樹を中心に25本程度植栽を行った。有害獣対策として防護ネットを設置し、生育状況を引き続き調査していく。 川津桜植栽地の右岸右側護岸を歩行しやすいよう整備した。 山の神周辺の人工林15aについて、桧を利用間伐し、林間地にシキミ50本を植栽したので、生育状況を調査していく。(大林愛林会実施)	
5 目的・効果	(1) 目的 樹種ゆたかな森を目指すと共に、試験的に杉、桧、シキミ等を植栽し、鹿・ウサギの食害を調査し、将来の皆伐・植林に向けてのデータを集積する。 将来森と触れ合う場所を確保するための下準備には、何が必要なのかデータ収集を行う。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。） 里山再生及び市民の憩いの森の実現に向けた取り組みの一環として、令和6年から大林愛林会の松くい虫荒廃地15aを整備し、一部の広葉樹を植栽した。令和7年度は広葉樹を中心に20本程度を（株）タマダの指導の下植栽した。整備、植栽により土砂災害や有害鳥獣等の被害を防止するとともに、森林資源を活用した地域の活性化のための土台作りに寄与できた。今後の状況を見守っていく。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	自主防災マップ作成・防災訓練実施(継続案件)	(6)事業中(4)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年11月9日	
(2) 実施場所	大林小学校グラウンド	
(3) 参加者数	150人	
(4) 主催団体	団体名 大林学区自主防災会連合会	
4 取組内容	令和7年度については、大林小学校の備蓄倉庫に何が備蓄され、不足品はあるか、追加配備した方が良いものは無いかを確認した。また、備蓄品は最低限の数量を確認し、地域住民の方が安心して避難でき、生活できるかを確認する事等、更なる防災意識の向上に取り組むこととした。	
5 目的・効果	(1) 目的 防災訓練を通じて、備蓄倉庫の装備品内容を周知することにより、地域住民が安心感を得ることが出来る。 災害時に必要な装備品内容を地域住民と共有する事により、自助の意識が高揚出来る。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。） 実施方針を策定したものの、施策は未実施となった。代替施策として、木と食の里まつりにおいて、安佐北消防署から救急救命のブースを招聘し、緊急対応を広報したことにより、地域住民の防災意識の向上に寄与した。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	多世代向けコミュニケーションスペース「ルリエん」の設置運営	(6)事業中(5)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
(2) 実施場所	トーホー株式会社広島工場内の瑠璃苑2階西半分	
(3) 参加者数	1, 500 人	
(4) 主催団体	団体名 大林学区地域運営委員会(関連団体:トーホー(株))	
4 取組内容	前年度に引き続き、地域交流(つどい)の場としてコミュニケーションスペース「ルリエん」を運営し、多彩な行事や取り組みを実施した。 - 参加者の意見を反映したイベントを毎週火曜日に開催した。 - 開催日を増やし、専門知識をもった団体や講師を招聘し、プレーパークや専門講座を開催した。 - 地域の実情やニーズに合わせた運営とするため、運営内容を企画検討する会議を定期的に行うとともに、情報発信を強化した。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的 - より多くの参加と交流を実現するため、開催日を増やす。 - 専門知識を持つ団体や講師を招聘することで、地域の魅力再発見やその醸成に寄与する。 - 長期的な運営と維持継続のためには、多様な地域住民の参加による自主的な運営体制を構築する必要がある。このため、検討会議の開催や情報発信を強化する。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。) - 参加同志の交流が増えることにより、地域コミュニティの活性化につながった。 - 経験の共有は、「ふるさと大林」の想いの醸成となった。		

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	大林小学校鮎放流	(6)事業中(6)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年5月21日	
(2) 実施場所	大林小学校裏手根の谷川	
(3) 参加者数	80人	
(4) 主催団体	団体名 大林学区地域運営委員会	
4 取組内容		
小学生に鮎の生態を学んでもらうことと、放流を通じて子供たちに川の環境や、放流の大切さを知ってもらい、川離れが進んでいる今日、川に親しむ気持ちが継続的に養われた。		
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的 LMOとして協力する事により、小学校と地域の一体化を図ることを目的とする。 小学校の父兄も地域の協力が大切なことを理解してもらう。		
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。） 地域の行事として定着を図り、小学校との連携の輪がひろがった。小学生を通じて、親の世代にも地域との協力の大切さを感じてもらい契機となった。 子どもたちも環境保全に目を向けるようになり、川を守る気持ちが高まった。		

3 自主財源で実施した事業

特になし